

発表タイトル	大学英語教育における自律的学習者の育成に関する研究
発表者所属名	メディア社会文化専攻・メディア教育開発センター
発表者氏名	石橋 嘉一
発表内容	
<p>本発表は、European Language Portfolio(ヨーロッパ言語学習帳)という外国語の学習過程の記述を行う Council of Europe(ヨーロッパ評議会)により開発されたポートフォリオを活用し、どのように日本の大学生を対象に自律的な言語学習態の育成を試みることができるかを考察した筆者の博士課程研究の一部である。</p>	
	
<p>画像 1:【ヨーロッパ言語学習帳(ELP)】</p>	
<p>European Language Portfolio(ELP)は、Common European Framework of Reference for Languages (CEFR) というヨーロッパにおける外国語学習の共通参照枠組みとともに Council of Europe により開発され、ELP と CEFR は共に影響し合ってきた経緯がある。このような外国語学習に重点が置かれた教材の開発は、ヨーロッパの各国が独自の言語を持ち、近隣の諸国とその言語を共用し、またある国では 2、3 の言語を公務上の目的で使用しているという背景を持ち合わせているためである。Council of Europe は、ヨーロッパ各国の言語がそれぞれの国の文化的遺産の重要な部分を形成していることを早くから認識し、これらの言語の出番を無くすのではなく、各国の言語を保護し、使用を促し、それぞれの文化へのアクセスを促進してきた。このような教育的な哲学を基に、「人は生涯に渡り複数の言語を自律的に学習していくべきである」という考え方を、Council では「複言語主義(Plurilingualism)」と呼び、ヨーロッパの言語教育政策に取り入れている(Glaser, 2005; Morrow, 2004)。</p>	
<p>筆者は、自律的な言語学習を育成する機能を有する ELP を日本の大学の英語教育で活用するための手法の検討を行っているが、ELP を日本用に localize させることが必須であると考えている。これはヨーロッパでも同じで、各国で教育背景が異なるため、それぞれの国で異なる ELP が模索され、約 20 の国で 50 の ELP が存在すると言われている。</p>	
<p>本発表では、(1) ELP が開発された背景、(2) ELP の機能と教育的意義、(3) ELP の理論的枠組みと効果検証、について主に扱う。その後、筆者が 2008 年 1 月に行った ELP を日本の大学の外国語教育で活用する手法検討のための予備調査(N=126)から、学生の自立的な英語学習の現状と問題点の示唆を提示する。</p>	